

太鼓台の駆け上がる神社

1300年の昔

私が住んでいる宮原は内宮神社だった



内宮神社

@uchinomiya-jinja.com
内宮天照皇大神宮

内宮社記
当社は内宮天照皇大神宮と
申し今を去る千三百年の昔
慶雲三年八月伊勢国五十鈴
の川上から日本民族の太祖神
天照大神と勸請古来新居地方
に在りて西の伊賀乃東の内宮と
並び称せらる 宮司

■内宮社記 (うちのみやしき)

当社は内宮天照皇大神宮と申し
今を去る千三百年の昔 慶雲三年八月
伊勢国五十鈴川の川上から
日本民族の太祖神 天照大神を勸請
古来新居地方に在りて 西の伊賀乃 東の内宮と並び称せらる
宮司

This shrine is called "Uchinomiya Teisho Koutai Jingu".
In ancient times (1300 years ago, or August of the 3rd year during the Keiun era),
The Great Sun Goddess of all Japanese descent Amaterasu-Omikami was greeted there.
On the upper reaches of the river called "Isuzu-gawa".
As passed down from olden times, the West is called by the name "Isono", the East "Uchinomiya".
Chief Priest(Suji)

角野中学校 1年 西田 百伽

目

次

- ① 調べようと思ったきっかけ
- ② 調べたこと
- ③ 調べた方法
- ④ 内宮神社史年表
- ⑤ 神社の由来
- ⑥ 参拝の仕方
- ⑦ 境内にお祀りしている神社
- ⑧ 年中行事
- ⑨ 夏越祭
- ⑩ 御神輿の経路(神幸祭)
- ⑪ 太鼓台の氏宮参り
- ⑫ 参道の測量
- ⑬ わかったこと
- ⑭ 感想

① 調べようと思ったきっかけ

幼いときから家族と一糸者に内宮神社にお参りしていた。
小学生になってからは、友達と「角野夏祭り」の後
「夏越祭」に行くことが通例となっている。

うす暗い行灯に照らされた石段を登り、大きい車輪をくぐりながら

- どうしてこの車輪をくぐるんだろうか。
- どうして沢山の社があるんだろうか。
- いつからここに神社があるんだろうか。

と思い調べることにした。

② 調べたこと

- 内宮神社 史年表
- 神社の由来
- 参拝の仕方
- 境内にお祀りしている神社
- 年中行事
- 夏越祭
- 御神輿の経路 (神幸祭)
- 太鼓台の氏宮参り
- 参道の測量

③ 調べた方法

- 宮司さんにお話を聞く。
- 宮司さんから頂いた「角里予町史」や「パンフレット」を読んで調べる。
- インターネットで「内宮神社のホームページ」や「ウィキペディア」で用語を調べる



御神輿



木鼓台氏宮参り

④

内宮神社史年表

時代区分	西暦	元号	月日	出来事
飛鳥	706	^{いん} 慶雲3	8月	第42代文武天皇の時代 ^① 伊勢神宮の内宮から、日本民族の大祖神である ^{あまてらす おおみかみ} 天照大神をお迎えし祭る。 最初の神社の位置は今の宮原町である。
室町・徳山	1585	天正13		^{てんしやう} 天正の陣で戦火にあい、社殿・宝物が焼失した。御神体は焼失をまぬがれ、土佐の ^{おのがわむらこむどうね} 大川村小麦富久に安置。
江戸	1614	^{けicho} 慶長19	9月29日	旧社地「宮原」に社屋を復興。
	1698	元禄11	7月22日	現在地山根に社殿を建ち、 ^④ 御遷宮を行う。
	1766	明和3	9月30日	拝殿が焼失。
	1804	文化元	9月22日	新拝殿を再興。
	1853	^{くえい} 嘉永3	9月29日	^⑤ 神輿渡御を始める。
昭和	1945	昭和20	5月4日	^{はいでん} 拝殿が落成。
	1953	昭和28	10月17日	^{ほんざん} 本殿が落成。

① 伊勢神宮：三重県伊勢市にある、最高の特別休名の宮と称する。

② 天照大神：太陽を司る神様。

③ 天正の陣：秀吉による四国攻めの一連の戦い。

④ 御遷宮：新しいお宮を造り替し御装束・神宝を新しくして大御神さまにお遷りを願う大祭。

⑤ 神輿渡御：神輿を取り囲むように隊列を形成し、宮司以下、神田殿・氏子総代が氏子各町を進行する祭事。氏子地域を巡行し神霊を慰め悪厄退散を願うものである。

⑥ 建立(^{くみりやう}に)：寺院・堂塔をたてること。

■ 名前の由来

伊勢神宮の内宮「ないくう」からお迎えしたので、内宮を訓読みして「うちのみや」と呼ぶようになった。「伊予のお伊勢さん」とも呼ばれる。

■ 天照大神を分霊した神社は愛媛県内に、4社ある。

(四国中央市の村山神社、新居浜市の内宮神社、西条市の伊曾乃神社、伊予市の伊曾能神社。)

■ 地名の由来「宮原」

内宮神社の旧所在地が宮原町(角野中学校の北の方、旧国道の南側)であった。お宮の跡地だったことから「宮原」と呼ばれるようになる。「宮原」は現在私の住んでいる「宮原町」のことである。



～ 宮司さんと私～

神社の由来や歴史を
学んだあと記念写真を
パチリ !!

～ 神社本殿への参道～



6

参拝の仕方（宮司さんに教えてもらった作法）

～ 2礼 2拍手 1礼 ～



① 手水舎の前に立ちかけれをばらう。
(うしやくで手と口を清める)



② 鈴を鳴らしてから、お賽銭を
そっと入れる。

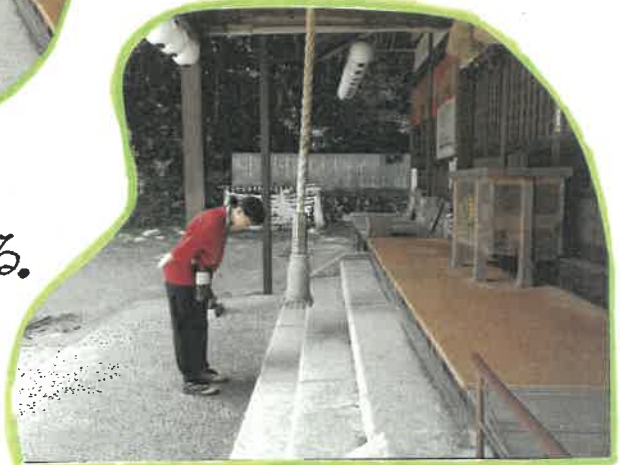


③ 姿勢を正して
2礼する。
(2礼)



④ 2回拍手を打つ。
(2拍手)

⑤ 最後に1礼する。
(1礼)



⑦

境内にお祀りしている神社



稲荷神社

神主矢野大和守が文化8(1811)年3月大和守の辞令を受け取るため、京都へ上ったとき、伏見の稲荷大社に詣で、御分霊をお迎えして帰った。伊勢の外宮の豊受の大神と同じ神さまなので、内宮神社の外宮という意味で、お祭りし始めた。

内宮神社の森を宝渡の森と呼ばれているところから「宝渡の森のお稲荷さん」と言う。

※角野の民話 → 「宝渡の森の正三位の狐さま」の本
※神階のひとつ



※外宮(げくう)とは

伊勢神宮の一つ。
穀物の神である豊受大神を祭る。三重県伊勢市に鎮座。



だいげんぐう 大元宮



この建物は、山田・篠土・三ツ石の氏神、深谷神社の元の本殿である。明治新政府の方針に基づいて、内宮神社に合併した。御神体は御本殿内にお祭りしている。

熊野予神社



西連寺の直野氏の祖が、お伊勢参りをして、お霊を受けて帰り西連寺に氏神としてお祭りしていたのを、内宮神社に合併した。お霊は、本殿に納めている。

たるはなのをばごせん じんじや 橘祖母御前神社



伊予の国の名山「石鎚」に ^{いやくせんじょうにん} 寂仙上人が住んでいた。一方新居の郷には「橘の祖母御前さま」が居られ ^{てんぽう} 天平宝字の頃二人の命は夫に終わった。果たせるかな、皇室には皇子、橘邸には女子が誕生した（延暦5年）。二人は親王、皇后として 生れ変わって結ばれたという。このことから、系彥結ひ、心願成就の神様として尊崇される。

たごりじんじや
多古里神社



御祭神は少名彦名命すくなひこなのみこと(医療、薬の神)で、
特に咳の出る病に御利益があり、「たごりの
神さん」と呼ばれる。

ぎやうばぐう
牛馬宮



戦前は、牛がお産をする、腹が痛くなる、牛が
病気になる、足を痛めたりするとこの神さまにお
願いしていた。今は、足腰の弱い人が強くなるように
お願いするようになった。

はちばん
八幡神社



角野小学校の校庭の中央、楠の林の中に
祭られていた中筋の氏神である。

総若宮社



生子山城ふもとの麓、山田・篠場・山根・洪水・
井出の下・新田・高祖付近の将兵の霊をお祭
りしたもの。

⑧

年中行事

月	日	行 事
1	1	歳旦祭
	2	西連寺獅子舞奉納
2	1	年賀厄除祭
5	3	春の例大祭、子供太鼓台昇上げ・獅子舞
7	第3日曜	夏越祭 (なごせ)
10	16	秋の例大祭—太鼓台氏宮参り
	17	秋の例大祭—中祭り・氏見せ
	18	秋の例大祭—神幸祭
11	15	七五三詣で
12	31	除夜祭

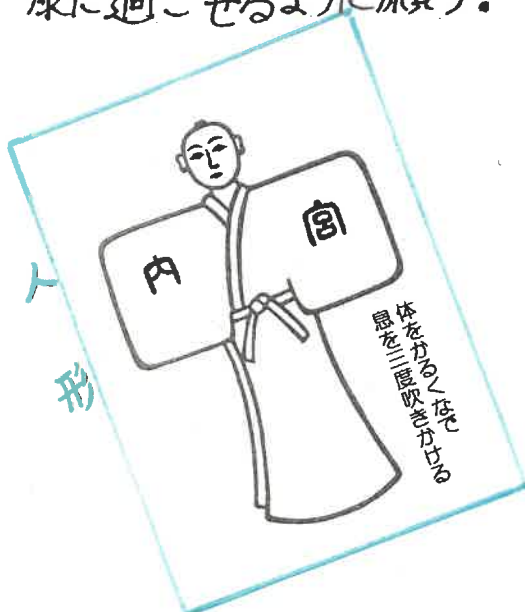


↑
和

⑨

なごせ 夏越祭

半年間の罪けかれを入形(ひとかた)へ移し、残り半年間の日々を健康に過ごせるように願う。



お祭のチラシ



内宮神社 7/14(日) 夕刻

令和6年

おみこし ⑩ 御神輿の経路各(神幸祭)

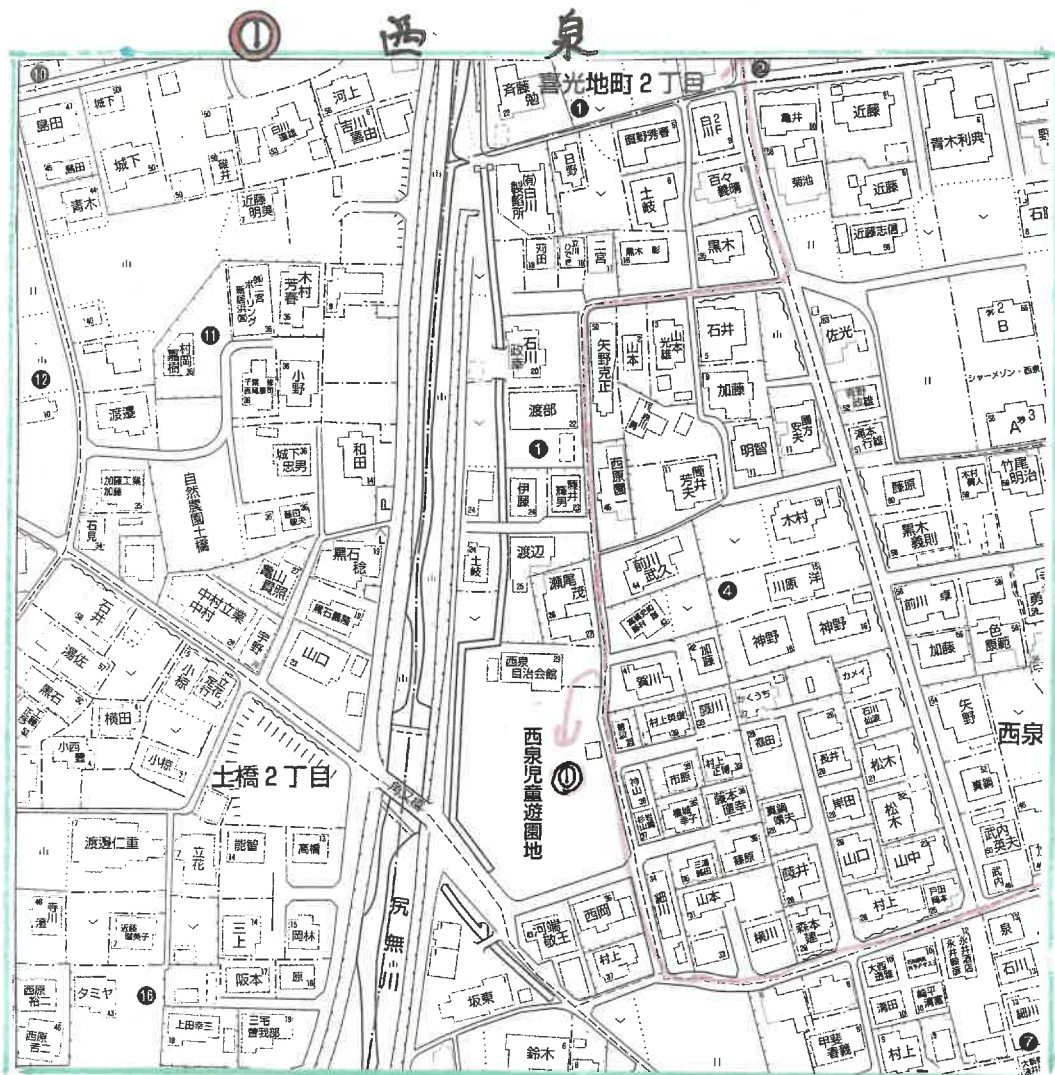
● 神輿は神道の祭の正祭に、普段は神社に居る神霊が氏子町内、御旅所などへ渡御するに当たって一時的に鎮座とされる輿である。

⑥ 御旅所^{おたひしょ}：神社の祭礼において、神が巡行の途中で休憩または宿泊する場所、あるいは神幸の目的地をさす。

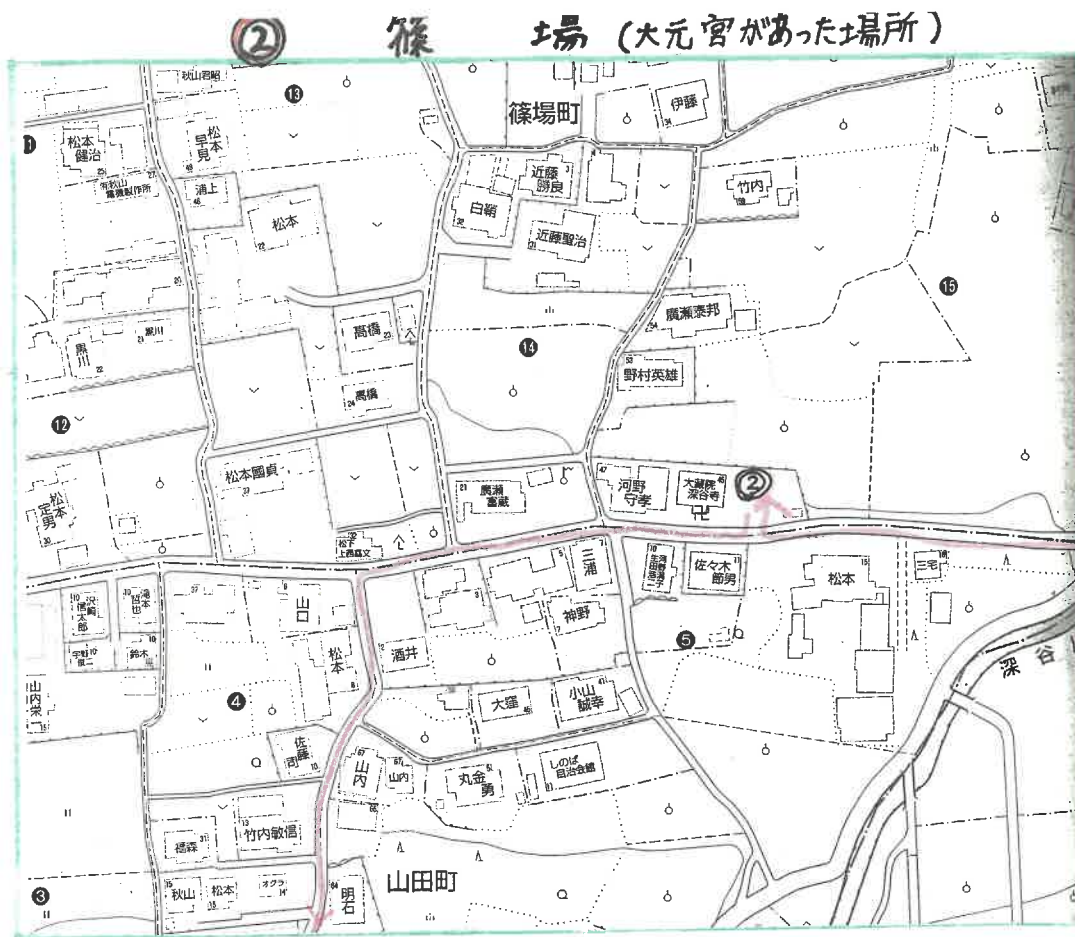
御旅所には、神社や祭神にまつわる場所や氏子地域などとして重要な場所が選ばれている。

⑪ 輿^{こし}：何人かで担いで運ぶ乗り物。

● ① 西泉と吉岡で祝詞をあげる。② 篠場はお寄りするのみ。



⑦ 祝詞^{のりと}：神主が神前で申し述べる言葉。



⑪ 太鼓台の氏宮参り

毎年10月6日未明に、北内・中筋・新田・喜光地の4地区の太鼓台が百段もの石段を一気に駆け上がる。

宮司さんの話によると、この神社には参道が2つある。南側は当初から幅が狭く傾斜がきつい石段で、北側は太鼓台をかきあげるために、後に、幅広く造ったそうだ。

私は部活でこの石段を走って上り下りするトレーニングに来ている。その時、きつくて死にそうになる。あの重い(約2.5t)太鼓台をかつき、一気に駆け上がるなんて、そうとう大変なことに違いない。想像するには、この石段のイ傷はその時に付いたものではないだろうか。

このことから参道の測量を試みようと思った。



北側参道入口

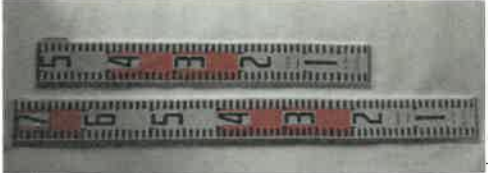
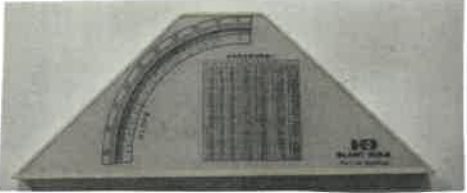


南側参道入口

⑫ 参道の測量

準備する物

～測量用具～

<u>巻尺・コンバックス</u> (長さを測る) 	<u>検測ロッド</u> (長さを測る) 
<u>勾配定規</u> (勾配を測る) 	<u>ポール</u> (長さを測る) 

～熱中症対策として～

- ・水筒 (お茶)
- ・スポーツドリンク
- ・塩あめ・果物
- ・リングネッククーラー



※熱中症対策をしながら参道の測量を行った。

北側参道
① 測量状況

上段付近



勾配：17°



蹴上：14cm 踏面：90cm
寸法 1275

中段付近



勾配：14°



蹴上：14cm 踏面：90cm

下段付近



勾配：16°



蹴上：9cm 踏面：65cm

北側参道
⑧ 測量状況

上段 付近



勾配 : 13°



蹴上 : 10 cm 踏面 : 1m 20cm

中段 付近



勾配 : 13.5°



蹴上 : 10 cm 踏面 : 1m 20cm

下段 付近



勾配 : 15°



蹴上 : 10 cm 踏面 : 1m 20cm

北側參道
D 測量狀況

上 段



勾配：27°



蹴上：14cm 踏面：31cm

下 段



勾配：26°



蹴上：14cm 踏面：31cm

勾配=角度 α

階段



勾配定規使用：26°



階段

南側參道
① 測量狀況

上段



勾配：35°



蹴上：18 cm 踏面：23 cm

中段



勾配：35°



蹴上：19 cm 踏面：25 cm

下段



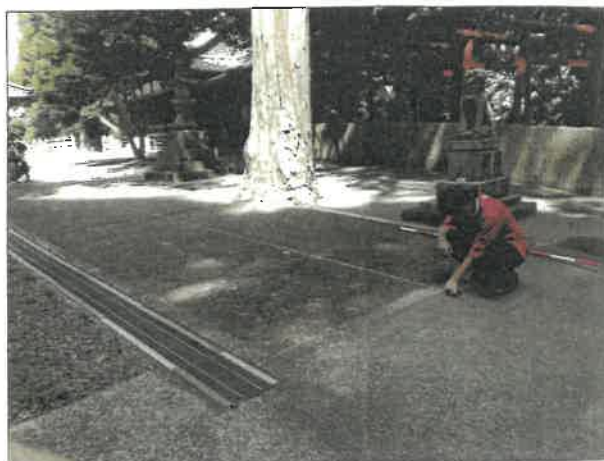
勾配：40°



蹴上：20 cm 踏面：24 cm

★ 距離の測量状況

北側

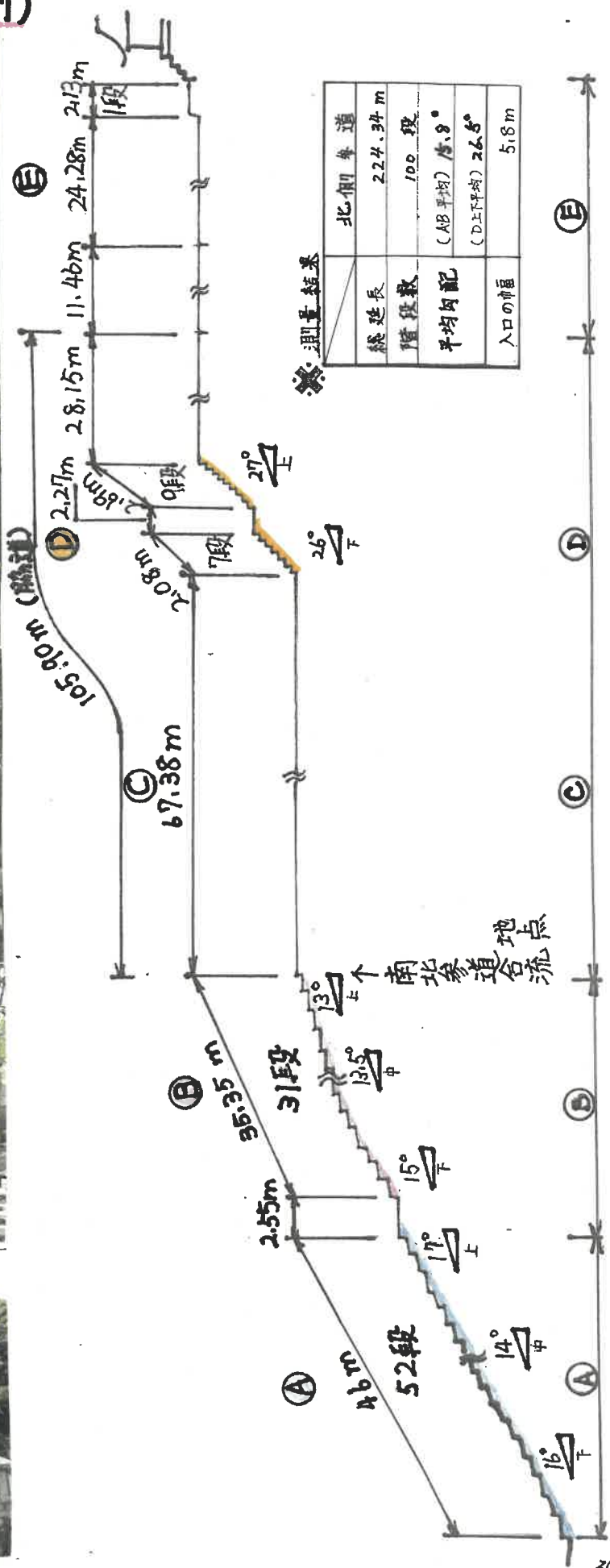
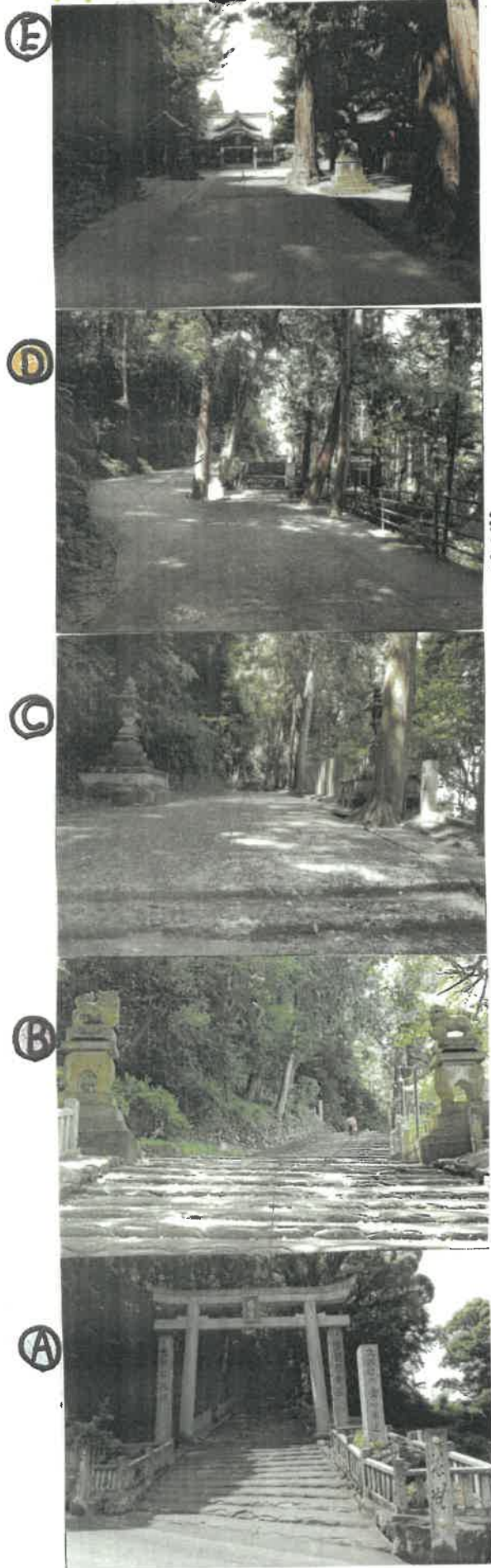


南側



～太直支台が通る参道～

測量図 (北側)





測量図 (南側)

②



③

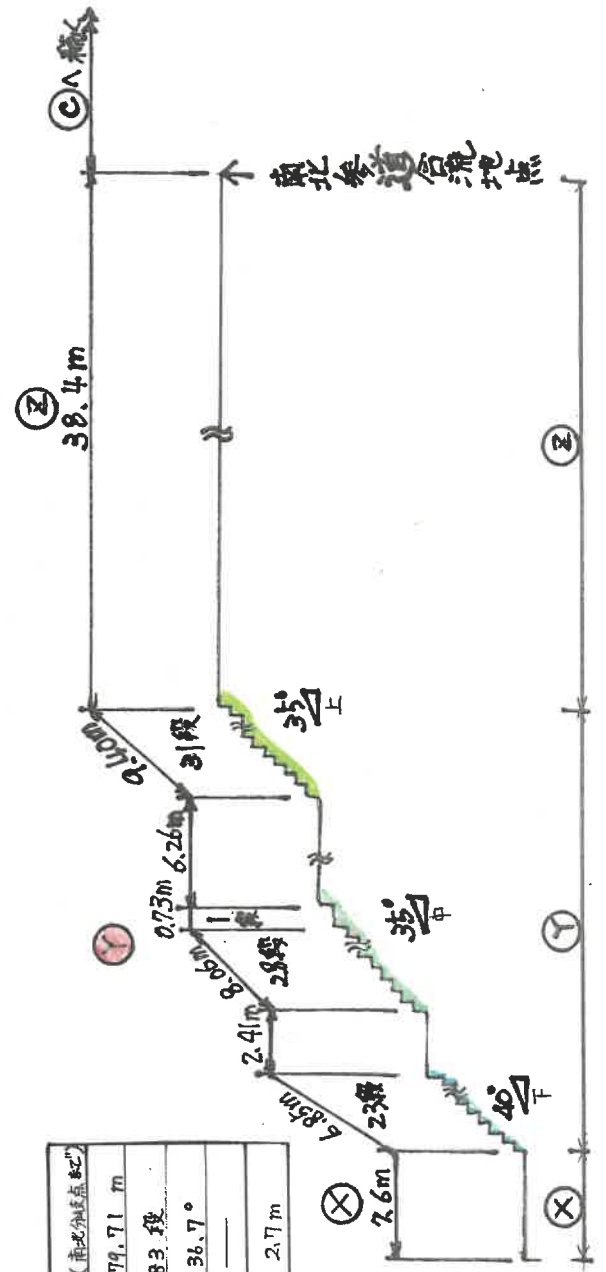


④



測量結果

	新御参道(南北分岐点配)
総延長	79.71 m
階段数	83 段
平均勾配	36.7°
入口の幅	2.7 m

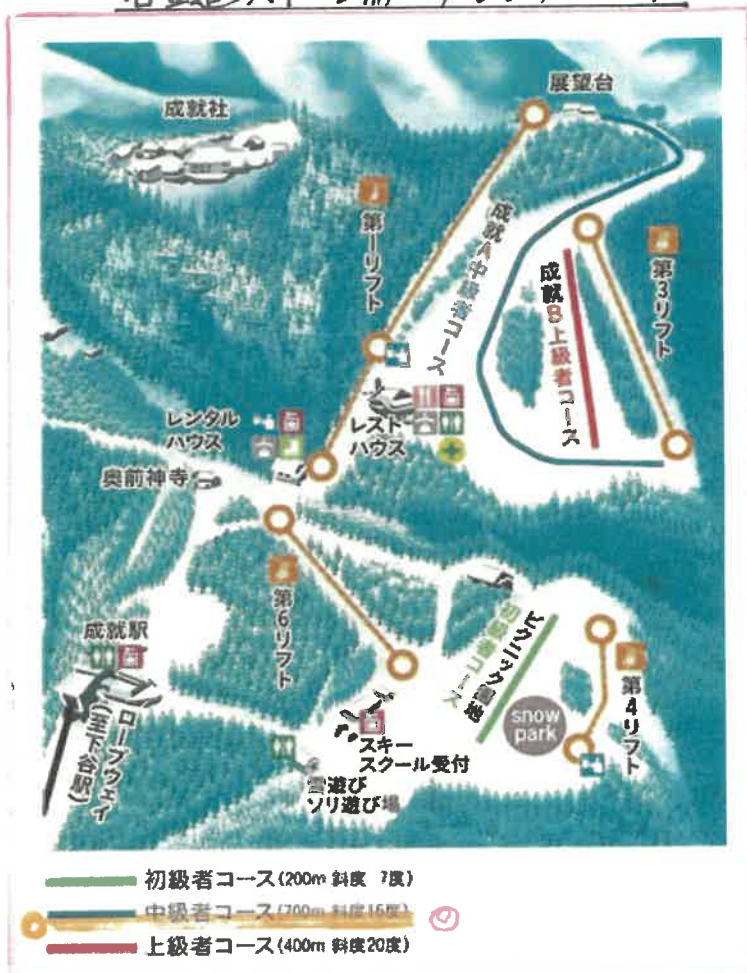


✖ 測量結果 ～太鼓台が通る参道～

	北側参道
総延長	224.34 m
階段数	100 段
平均勾配	(A:B 平均) 15.8° (D:E 下平均) 26.5°
入口の幅	5.8 m

測量した結果、この勾配がどのくらいのものか、身近な石鎚山のスキー場の斜度と比較してみた。

石鎚山スキー場 ゲレンデマップ



神社の石段の勾配は、中級者コース以上の急な傾斜であることがわかった。

「石鎚山スキー場ホムページ」より

⑬ わかったこと

- 内宮神社は、もともと宮原にあったが、後に現在の山根に木多ったこと。

天照大神を分霊している神社は、愛媛県下に4社しかない。

- 宮司さんから正式な参拝方法を教えて頂き、今までのおさい金銭の系内め方がちがっていたことに気付いた。
『心をこめてそと納める』こと。

- 境内に社が多く祀られているのは明治新政府のお金針に基づいて合併したから。

- 夏越祭の車輪はワラで造られていると思っていたがカヤを使っていた。カヤには厄を払う力があることから使用しているそう。

- 御神輿が秋祭りの最終冬日に角野地区を巡行し2箇所でお祝詞をあげている。

- 参道入口が南北2つ有り、北側が太鼓台をかきあげるために造られたこと。

- 測量の結果、石鎚スキー場の中級者コース以上の急な傾斜であった。

14 感想

内宮神社について調べていくうちに、その書物から興味深いことが色々あり、とても長い歴史を感じました。

特に、1300年前、内宮神社は現在の私の住む「宮原」に^{こんりやう}建立されていたという^{いんげき}衝撃的なことです。また、神社にまつわる言葉は、普段使わないような漢字で書かれてあって、その読み方も難しく、注意深く調べないとその意味さえかんちがいしたりする状態でした。測量についても、両親に定規の当て方などを教えてもらいながら、勾配や距離を測りました。時間がかかったけれど、初めての作業だったのが意外におもしろく、とても勉強になりました。

内宮神社は角野地区の入にとって身近な存在であり、節目の行事の大舞台な場所です。

「太鼓台が参道を駆け上がる氏宮参り」は、私達新居浜市民にとって誇れる素晴らしい文化だと思います。

～参考資料～

「角野町史」「内宮神社パンフレット」…宮司さんより頂く

「内宮神社HP」「石鎚寺場HP」「ウイキペディア」…インターネット

「宝渡の森の正三位の狐さま」…角野の民話と伝説の本